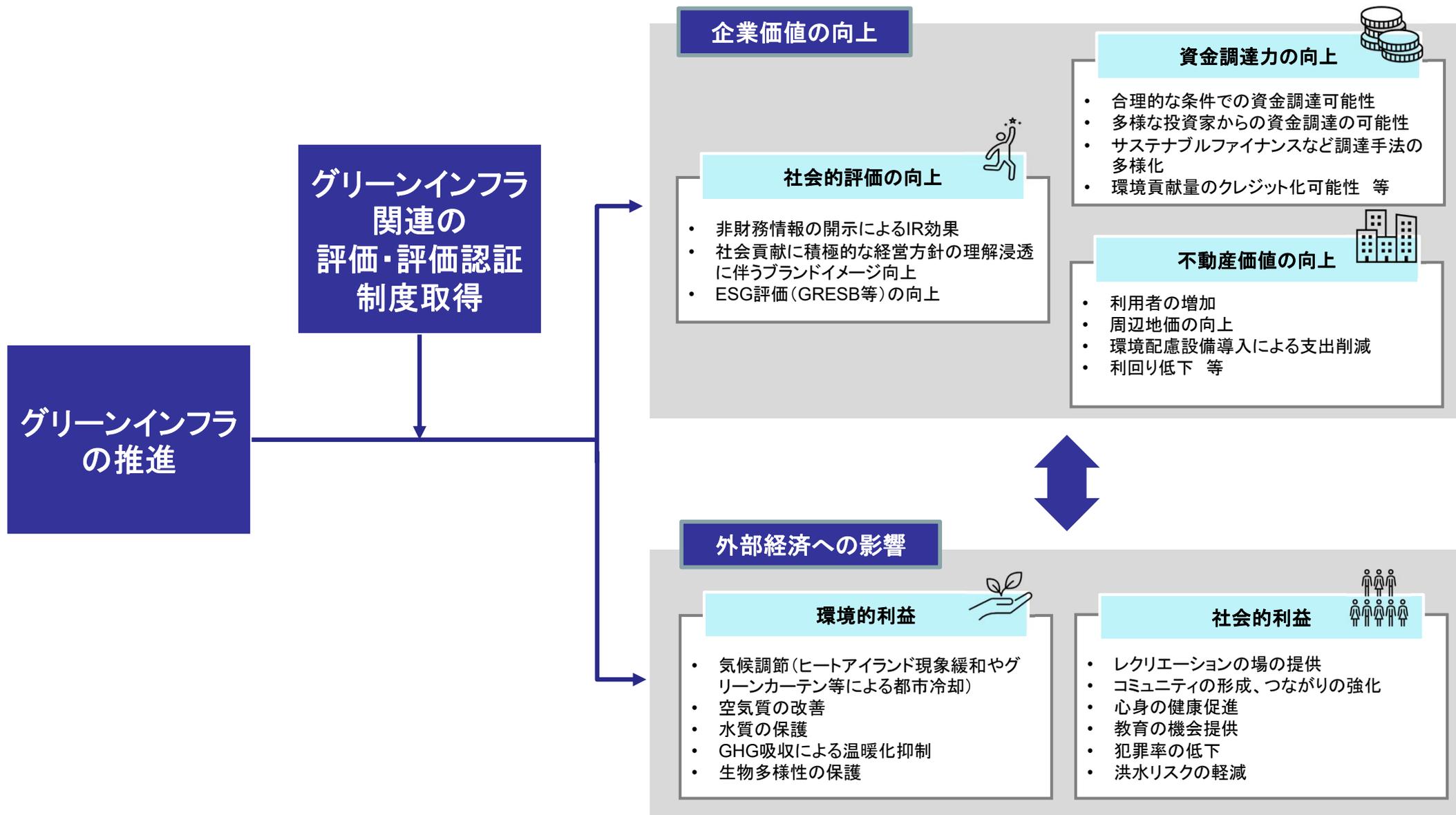


グリーンインフラに関連する評価・認証制度について

国土交通省 総合政策局 環境政策課
令和6年5月

グリーンインフラ関連の評価・認証取得により期待される効果

- グリーンインフラ関連の認証制度取得により企業価値の向上や外部経済への好影響を与えることが考えられる。
- また、こうした影響を通じてグリーンインフラの活用促進につながることを期待される。



国土交通分野に関連する主な評価・認証制度(例)

認証制度	概要
GRESB	不動産セクターの企業単位でのESG配慮を測る認証制度。「実行と計測」「マネジメントと方針」の2軸スコアが両軸とも50%以上の場合「グリーンスター」の称号を得る。
CASBEE	日本発のグリーンビルディング認証制度。「環境品質」を「環境負荷」で除した指標で評価される。省エネルギーや環境負荷の少ない資機材の使用といった環境配慮、室内の快適性や景観への配慮なども含めた建物の品質を総合的に評価。国土省の取組と連動し、助成制度や容積率緩和等の優遇が受けられる点に特徴がある。
LEED	アメリカ発のグリーンビルディング認証制度。建物の環境負荷低減と利用者の快適性の観点から建物の環境性能を評価する建物の新築/既存、対象(建築物/テナント/街区)、用途毎に異なる評価システムを有する。世界的に普及・活用されている。
DBJ Green Building	日本発のグリーンビルディング認証制度。CASBEEと比べ、不動産のハード・ソフト性能をグリーンの側面から総合的に評価する。環境性能の他、利用者の快適性、防災・防犯、周辺環境・コミュニティへの配慮、ステークホルダーとの協業等を考慮。
WELL	利用者のWell-Beingに特化した空間認証制度。設計・建設・運用と医学・科学的研究を組み合わせ、空気・水・食物・光・運動・温熱快適性・音・材料・心・コミュニティの10のコンセプトにより評価する。
Fitwel	建物について利用者の健康性の観点から評価認証システムで、米国で開発・運営されている。認証結果は3段階の星マークでランキングされ、評価項目としてロケーションや建物へのアクセス、屋内外の環境、緊急時の準備等が設けられている。
SITES	ランドスケープに特化した環境認証制度。土壌、植物、水、ハードスケープの総体としてのランドスケープの便益を算出する。建物がないプロジェクトでも評価対象となる。
SEGES (社会・環境貢献緑地評価システム)	主に企業等により創出された緑地及びその保全活動に着目した認証制度。「そだてる緑」「つくる緑」「都市のオアシス」の3部門が存在し、緑地機能の発揮や土地利用の持続性、地域の潜在的価値の尊重等を考慮。
ABINC (いきもの共生事業所認証)	企業活動における自然との共生促進を目的とした、生物多様性に配慮した事業所(工場、都市、住宅等)の認証制度。
エコディストリクト	住民、地権者、就業者、企業、NPO、行政を含む多様な主体の共同作業によって共有される持続性ビジョンと行動計画の策定に貢献するツールとして、非営利組織EcoDistrictsにより開発された。3つの必須項目「公正」「レジリエンス」「気候」、6つの優先項目「場所」「繁栄」「接続性」「健康+福祉」「生活インフラ」「資源保全」、3つの実装段階「組織化」「ロードマップ」「パフォーマンス評価」で構成される。
JHEP (ハビタット評価認証制度)	事業前後の生物多様性価値の増減に着目した認証制度。ハビタット(野生生物の生息環境)の保全・再生・改変を行う事業すべてを対象に、ハビタットの質・面積・時間の3軸により生物多様性の価値を算出する。